



令和4年度

# 学校評価報告書

## 帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

## 令和4年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和4年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園  
園長 塚本 真紀

# 令和4年度 学校評価

## 1. 総括

学 校 名	帝塚山幼稚園
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 (教育目標)	<p>一人ひとりに寄り添い、豊かな感性と知性を育む教育を実践する。</p> <p>“「一人ひとりの内面を育てること」を目標とし、自然とふれあいながら豊かな心を育み、好奇心、思考力、表現力の基礎を築く。”</p>
前年度の成果と課題	<p>[成果]</p> <p>本園独自の四季の自然とのふれあいを主軸とした教育カリキュラムにより園児一人ひとりの個性を尊重し、豊かな感性と知性、自己肯定感を育む教育を実践した。</p> <p>[課題]</p> <p>今後も園児の実態に即した教育の実践を図り、園児が主体的な遊びを通して心身の健やかな成長を遂げ、保護者の満足度も増すよう、教員の指導力向上に努める。</p>

## 2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかつた）】

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（）内は評価指標	自己評価結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)		今後の課題・改善方策
1. 建学の精神に基づく教育活動の共有化	①「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。（令和4年度教育カリキュラムの共有化）	A	① 年度始めの職員会議において「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を職員間で共有し、目標達成に向けて教員一人ひとりが研鑽しながら実践を積んだ。	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。（令和4年度教育カリキュラムの検証）	①「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。
	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。（令和4年度教育カリキュラムの検証）	A			② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。
2. 自然教育の実践と教育内容の質の向上	① 田植えから稻刈りまでの体験や夏の虫捕り、秋の木の実や落ち葉拾いなどの四季の楽しさを感じられる園外保育を通して、心を動かされるような直接体験を計画し、実施する。（園外保育を計画し、その様子を園便り・クラス便り、てづきッズ便りに掲載して保護者に開示）	A	① 園児が四季の楽しさを実感できる園外保育を積極的に計画し、直接体験ができる機会をできるだけ多く設けた。園児の豊かな感情を育むため、好奇心の芽生えを大切に、様々な表現活動を行った。	② 子どもたちが自由な発想で遊びを創造し、発展できるように、職員間で、園庭や園内の植栽等環境設定を工夫した。	① 田植えから稻刈りまでの体験や夏の虫捕り、秋の木の実や落ち葉拾いなどの四季の楽しさを感じられる園外保育を通して、心を動かされるような直接体験を計画し、実施する。
	② 自由遊びの時間に子どもが遊びを創造できる環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。（達成状況の報告）	A			② 自由遊びの時間に子どもが遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。
3. 道徳性の芽生えと人権教育	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの学びを保護者とも共有する。（令和4年度通園マニュアルの作成。異年齢活動の内容を園便り、クラス便りで保護者に開示）	A	① 年度始めに保護者に集団送迎時のマナーやルールを説明し、周知した。日々の園生活の中で自然な形で異年齢交流ができる機会を設けた。	② 教員間で、年間行事のそれぞれの目的やねらいを明確にし、その行事までの過程を大切にする意義をクラス便りや園便りを通じて保護者に伝えた。	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの学びを保護者とも共有する。
	② 年間の行事の中で、その子らしい姿を教師が大切に受けとめ、一人ひとりの個性を發揮できるようにする。（クラス便り・園だより）	A			② 年間の行事の中で、その子らしい姿を教師が大切に受けとめ、一人ひとりの個性を發揮できるようにする。また、保護者にその目的や成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。
	③ 近隣の障がい者施設の方との交流を計画し、実施する。又その交流から得た子どもの心の成長を保護者と共有する。（交流計画の立案。クラス便り・ホームページでの内容開示）	C	③ 次年度に向けて近隣の障がい者施設との交流の代替措置として、聴覚障がいの方より園児に「手話」を教示していただくことと、近隣の高齢者施設の方との交流することで園児に「心のバリアフリー」を学ばせる機会を設定することを立案した。		③ 近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た子どもの心の成長を保護者と共有する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（）内は評価指標	自己評価結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
4. 「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園内教育連携の強化と共有化	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を計画し、実施する。（交流会の立案。クラス便り、園便り、ホームページでの内容開示）	A	① 帝塚山小学校1年生との交流会及び5年生との学園農園での収穫活動を計画し、実施した。	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を計画し、実施する。
	② 帝塚山中学校・高等学校の生徒を通してあこがれる理想の姿を園児、保護者ともが実感できるような活動を幼稚園職員間で検討する。（中高生徒との交流機会の検討）	A	② 帝塚山中学校・高等学校の生徒との交流機会の具体的な計画は立てられなかったが、帝塚山高等学校教員による親子サイエンス教室を計画し、実施した。	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山高等学校教員の指導による体験型授業を計画し、実施する。また、帝塚山中学校・高等学校の生徒との交流機会も検討する。
	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。（年間15回以上の食育活動計画及び実施報告を文書で保護者に通知）	A	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導の食育活動の年間計画を立て、計画通り実施した。食育を通して「生きる力」を育むというねらいを、保護者とも共有した。	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。
	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向ができる限り周知し、保護者に教員から「帝塚山教育の良さ」を発信する。（クラス会資料（年間3回）、てづくり便りで学園内のトピックスを報告）	A	④ 帝塚山小学校の施設を利用する行事などを通して保護者に内部進学の推進を図ったが、進学率は53%に留まった。帝塚山大学心理学部及び現代生活学部食物栄養学科の協力を得て、「子育て支援講座」を2回実施し、保護者の好評を得た。	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向ができる限り周知し、保護者に教員から「帝塚山教育」の良さを発信する。
5. 国際理解教育の推進	① カリキュラム編成の土台として「英語の時間」と「English Time」の年間計画を立案し、実施する。（年間20回以上の「英語」と5回以上の「English Time」の実施）	A	① 英語科カリキュラム編成のため、「英語の時間」と「English Time」の年間計画を立案し、計画通り実施した。	① カリキュラム編成の土台として「英語の時間」と「English Time」の年間計画を立案し、実施する。
	② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるような、奈良の文化遺産に触れる園外保育を実施する。（園外保育の内容をクラス便り、園便りで保護者に開示）	A	② 年長児を対象に奈良の伝統工芸である赤膚焼の窯元での体験を立案し、実施した。また、年中組を対象に文化遺産に触れる園外保育の計画を立案し、実施した。	② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるような、奈良の文化遺産に触れる園外保育を実施する。
6. 研究・研修を通じた教員の資質向上	① 令和4年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。（毎月1回の園内研究会の実施と記録）	A	① 年間を通じて、外部講師による園内研究会を計画し、計画通り実施した。この研究会を通して本園独自の「自然教育」について研鑽を積んだ。	① 令和5年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。
	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。（各教員複数回の研修会参加と研修報告書の作成）	A	② 様々なテーマの外部研修会に、積極的に全教員が参加した。	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（）内は評価指標	自己評価結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)		今後の課題・改善方策
7. 学校評価の実質化	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。（ホームページでの自己評価結果の公表）	A	① 令和3年度の自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表した。  ② 学校関係者評価の内容を検討し、準備し、令和4年度学校関係者評価を実施し、ホームページで公表した。	A	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。  ② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。（学校関係者評価の公表）
	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。（学校関係者評価の公表）	A			
8. 教員評価の実施推進	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。（教員自己評価結果及び個別面談）	A	A	① 教員に自己評価の実施に向けての趣旨説明を行い、年2回（前期・後期）の管理職による教員の個別面談と自己評価を実施した。	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。
9. 園児募集・広報活動の強化	① 教育連携課の客観的な見方や情報を入手し、効果的なPR活動を実施する。（個別見学会の回数）	C	① 入園説明会、個別体験・見学会だけでなく随時、個別の園案内を実施し、更に帝塚山中高同窓会総会で幼稚園・2歳児教育のPRの機会を設けたが、幼稚園、2歳児教育共、募集定員充足には至らなかった。今後、有効な募集活動について検討していく。		① 学園の教育連携課の客観的な見方や情報を入手し、効果的なPR活動を実施すると共に、個別見学などニーズに合わせた対応を行う。また、募集定員数についても検討する。
	② 幼稚園のホームページ上で日々の園生活の様子を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させる。（ニュース&トピックスの毎日の更新及び帝塚山小学校広報部との情報共有）	A	② 幼稚園・2歳児教育共に園児の様子をアピールするため、幼稚園のホームページのニュース&トピックスを毎日更新した。また、帝塚山小学校の募集関連行事や外部説明会で幼稚園のPRチラシを配布するなど連携して広報活動を実施した。		② ホームページで日々の園生活の様子を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させる。
	③ 各学校との連携活動とその教育的效果を理解してもらえるよう、保護者にきめ細やかに伝える。（活動内容や成果を園だより、てづくり便り、クラス便り、クラス会資料で保護者に通知）	A	③ 園行事に帝塚山大学教育学部の学生が参加することによって、学びの場を提供すると共に園行事のスムーズな運営につながることを園便りなどを通して保護者に伝えた。		③ 各学校との連携活動とその教育的效果を理解してもらえるよう、保護者にきめ細やかに伝える。
10. 安全管理の強化と徹底	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に計画、実施し、園児の防災意識を高める。（令和4年度学校安全計画(幼稚園)防災訓練計画と実施確認書）	A	① 令和4年度学校安全計画(幼稚園)を策定し、園児の防災意識を高めるために避難訓練の年間計画を立て、実施した。  ② 危機管理マニュアルの内容の点検、見直した。	B	① 学園の一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に計画、実施し、園児の防災意識を高める。
	② 危機管理マニュアルを点検、作成し、教職員間で内容を周知する。（危機管理マニュアルの点検）	B			② 危機管理マニュアルを点検、作成し、教職員間で内容を周知する。幼稚園バス園児置き去り防止を徹底する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（）内は評価指標	自己評価結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)		今後の課題・改善方策
11. 保健管理の徹底	① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底する。(新型コロナウイルス感染拡大防止の取り決めについて保護者に通知)	A	A	① 学校保健計画(幼稚園)を策定し、年度始めに新型コロナウイルス感染症対策についての取り決めについて職員、保護者間で内容を共有した。	① 新型コロナウイルスをはじめとする感染症の予防対策継続を徹底する。
	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。(保健指導計画を立案し、クラス便り、園便りで保健指導内容を開示)	A		② 保健指導計画を立案し、養護教諭を中心に計画通り園児に年6回の保健指導を徹底した。	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。
12. 子育て支援事業の充実	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための保育計画を立案、実施する。(令和4年度2歳児教育カリキュラム)	A	A	① 2歳児教育の年間カリキュラムを作成し、個々の成長に応じる形で柔軟な活動を実施した。	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための保育計画を立案、実施する。
	② 心理学部の協力を得て、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるよう努める。(年間4回のカンファレンス実施記録・個別相談の実施)	A		② 帝塚山大学心理学部・大学院心理科学研究科とキンダーカウンセラーカンセリング事業に関する連携協定を締結し、園児や保護者のカウンセリングを実施した。また、カンファレンスで教員にも情報共有し、年度末には1年間の振り返りとする会議を実施した。	② 帝塚山大学心理学部・大学院心理科学研究科の協力を得て、キンダーカウンセラーカンセリング事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。
	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら安心して保護者が預けられる環境を設定する。(通常保育時間後及び長期休業中の預かり保育の実施及び記録)	A		③ 保護者のニーズにあわせて年間の預かり保育実施日を決定し、安心して預けられる環境を提供できるよう帝塚山大学教育学部学生ボランティアの協力も得ながら、内容を精査した。	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。
13. 経営安定化策の強化	① 継続的な節約(事務費を中心に)に努める。(物件費の前年度からの減少)	A	A	① 年度始めに、幼稚園の教職員全員が継続的な節約(事務費等を中心に)に努めることを確認し、実行した。	① 継続的な節約(事務費を中心に)に努める。
	② 適切な人員配置をしたうえで調整を図る。(教員配置数の点検)	A		② 適切な人員配置を心掛けることを管理職を中心に確認した。	② 適切な人員配置をしたうえで調整を図る。

### 3. 学校関係者評価

(学校関係者評価実施日：令和5年4月21日。)

学校関係者評価委員会委員：育友会会长、副会長、帝塚山大学教育学部教授、帝塚山小学校校長)

意 見	改 善 方 策
① 近隣の障がい者施設の方との交流が実施できなかったことは、施設側の事情もあり、仕方がない。子どもたちには貴重な良い経験の機会なので、コロナが収束すれば、安全対策をしっかり行い、実施できると良い。「心のバリアフリー」を求め、ZOOMでの交流やスライド学習、絵本等を含め、スムーズに実施できる活動も取り入れてみてはどうか。	① 令和5年5月8日に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが「5類」に移行されるが、受入側施設では第9波も懸念されている状況であるので、対面での交流以外にも様々な交流の在り方を考え、「心のバリアフリー」を学んでいけるように取り組んでいきたい。
② 子どもの数が減少する中、「帝塚山教育」を理解してもらうために祖父母を対象として同窓会組織の力を借りることを試みたことは、有効な広報活動だったと思う。幼稚園だけでの募集を考えるよりも小学校とも協力して総合学園の繋がり、良さを示していく地道な活動が必要である。また、SNSを活用して発信したり、在園している保護者との交流をよりはかり、子育ての悩みを気軽に相談できる窓口となり、保護者の考え方をアップデートしていくながら、在園の保護者を満足させ、口コミで幼稚園の良さを広げていくことが大切なのではないか。そして、近隣の幼稚園・小学校とも意見交換していくことで教育取組みの選択肢を広げていくことが園児募集に繋がると思われる。	② 子どもの数が減少し、募集定員を充足させることが厳しい状況であるが、在園している保護者の満足度を上げることを目標に今後も努力していく。在園している保護者に園の教育への理解を深めてもらい、口コミで園の魅力を広げていくことにも力を入れ、ホームページだけでなくSNS等で、幼稚園の教育を広く認知してもらうために発信することも考えていきたい。幼稚園から大学まである総合学園としての良さを、大きなメリットとしてアピールしていきたい。
③ 育友会活動はコロナ禍で制限された中、出来る限りのことを代替策として実施している。今後も幼小の連携を総合学園としてやっていくと良い。	③ コロナ禍で出来る限りのことを代替策として実施してきたが、今後はコロナ禍での経験を生かし、コロナ禍前の状況に戻していくことを念頭に、更なる工夫を凝らして、子どもたちの為に園行事を育友会と連携して活発に進めていきたい。